

基本方針

「私の生協」と思って頂けるよう、組合員一人ひとりを大切にします

2016年度に重点的に取り組むこと

①暮らしをつないで、“より豊かな暮らし”をみんなで作ります

- 組合員さんの声（使い方、食べ方、暮らしの困りごとなど）の発信やおしゃべりの場を大切にします。その声を他の組合員さんや職員、お取引先につなぎ、商品の開発改善や共同購入カタログ、店舗 POP などを通じた交流を強めます。
- 職員が一人ひとりの組合員さんの発信に耳を傾け、想いをしっかり受け止め、品揃え改善や事業運営に生かします。
- 商品の学習や声の交流を通じて、生産者、お取引先、組合員さん、職員がお互いに理解し合える場をつくり、信頼関係を強めます。

②安心して暮らし続ける地域についてみんなで考える場や取り組みを応援します

- コープふれあいの集いなどを通じて、地域でのつながりをみんなで広げます。
- 地域の諸団体との連携や広報を強め、「おたがいさま」活動が地域にさらに広がるよう支援します。
- 平和・ユニセフ、環境の取り組みについて、参加された方の想いや感想とともに情報の提供をすすめます。また、行政と協力関係を強めます。
- 東日本大震災の支援を継続します。



各事業本部で2016年度に重点的に取り組むこと

共同購入事業本部

- ①「聴く」ことを仕事の中心に据えて取り組みます
- 組合員さんの声を「よく聴く」、部署や職場全体でも相手の話を「まず聴く」ことが大切です。一人ひとり、暮らしも想いも異なります。きちんと聴いて、目の前の組合員・同僚がどんなことを思って発言したのかをよく考え、的確に行動できるようにします。また、普段会えない方には、自分から「会いに行く」ことを積極的に取り組みます。

僚がどんなことを思って発言したのかをよく考え、的確に行動できるようにします。また、普段会えない方には、自分から「会いに行く」ことを積極的に取り組みます。

②「まいこ一ぷ」に掲載している商品の品揃えや量目を見直します

- 「まいこ一ぷ」では、少人数の家族の組合員さんでも気持ちよく買えるようにご利用しやすい商品の品揃えを継続して行います。2015 年度、ご要望の声が多かった「お徳用・増量・不揃い」などのお買得な商品についても、「まいこ一ぷ」の中できちんと企画します。
- ③生協の事業を継続的に維持していくために必要な粗利益率を確保します
- 「まいこ一ぷ」を制作することに関わる全員がチームで働けるようにします。「実績（数値）⇒仮設⇒計画⇒実践」のサイクルを繰り返し実施し、品揃えの満足度を高め続けながら必要な粗利益率を確保します。

店舗事業本部

- ①適量の取り組みを重点商品（その時期に一番利用される商品）と組合員さんと使い方交流した商品を優先的に、きちんとスペースをとって、少量のものを優先しながら大容量のものまで品揃えします。
- ②普段の暮らしに必要な品揃えを追求し続け、定番商品の品揃え改善をすすめます。
- ③組合員さんのお困りごとに耳を傾け、誠実に応え努力し続けます。
- ④メイトさんが生き生きと主体的に仕事ができる職場運営をすすめます。
- ⑤鮮度ある売り場づくりをすすめるために、適正在庫（在庫回転日数目標）を維持します。また、人員体制を整え組合員さんにとって、必要な品揃えができるように夕方からは出来立て商品を提供します。
- ⑥お取引先に組合員さんの利用実感などの声を届け、商品改善につなげます。

共済・サービス事業本部

<共済>

- ①年間を通じて保障の見直し機会を広げます。
- 継続的な学習会をすすめ、組合員さんの暮らしの変化やお困りごとなどをよく聴いて一人ひとりの暮らしにあった保障等の案内ができるようにしていきます。
- 組合員さんに役立った保障の見直し事例などの取り組みを（仮称）「くらしに役立ったよニュース」で職員向けに月1回発信し、取り組みの共有化をすすめます。
- ②「請求忘れゼロ」や組合員さんどうしの「助け合いの輪」が広がるよう広報物の見直しを行い、組合員さんからいただいた声（請求事例や役立ったこと）を「ありがとうの声共済ニュース」で組合員さんに月1回発信し、声の交流をすすめます。
- ③暮らしのお困りごとを広く相談できるように、店舗での「保障の見直し相談会」を（仮称）「くらしの保障・サービス相談会」に名称変更し、保障（共済・CIC）やサービス（夕食宅配、葬祭、サービス全般）について相談受付ができるようにします。

<夕食宅配>

配送スタッフさんのやりがいや、組合員さんとの接点を大切にするために、配送スタッフさんに向けてのニュース（メニュー改善や喜ばれた事例等）を発行します。また、他生協の取り組み情報収集や視察を行い、今後将来的な夕食宅配事業構造の見直しについて検討を行います。

<サービス>

商品の利用履歴情報も蓄積し、ていねいなご案内ができるようにしていきます。また、住まいに関連する住宅、リフォームのお取引先拡大の検討をすすめます。



2015年度決算報告・2016年度予算

2015年度決算報告書

貸借対照表

生活協同組合コープかがわ

2016年3月31日現在(単位:千円)

生活協同組合コープかがわ

自 2015年4月 1日
至 2016年3月31日(単位:千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
I 流動資産	5,814,463	III 流動負債	2,527,987
II 固定資産	5,478,059	IV 固定負債	457,233
(1) 有形固定資産	4,276,142	負債合計	2,985,221
(2) 無形固定資産	118,858	(純資産の部)	
(3) その他固定資産	1,083,059	V 組合員資本	8,307,302
		出 資 金	7,455,951
		剰 余 金	851,350
		法 定 準 備 金	290,000
		任 意 積 立 金	45,000
		当 期 未 処 分 剰 余 金	516,350
		(うち当期剰余金)	(476,838)
資 産 合 計	11,292,523	純 資 産 合 計	8,307,302
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	11,292,523

損益計算書

生活協同組合コープかがわ

自 2015年4月 1日
至 2016年3月31日(単位:千円)

科 目	金 額
供 給 高	19,551,014
供 給 剰 余 金	4,618,017
共 済 受 託 取 入	303,019
事 業 総 剰 余 金	4,921,036
事 業 経 費	4,658,560
事 業 剰 余 金	262,475
事 業 外 取 支	96,001
経 常 剰 余 金	358,477
特 別 損 失	18,245
税 引 前 当 期 剰 余 金	340,231
法 人 税 等	37,928
法 人 税 等 調 整 額	△ 174,535
当 期 剰 余 金	476,838
当 期 首 繰 越 剰 余 金	39,511
当 期 未 処 分 剰 余 金	516,350

(2016年度収支予算)

(単位:千円)

科 目	金 額
供 給 高	19,725,000
供 給 剰 余 金	4,687,836
共 済 事 業 剰 余 金	304,000
事 業 総 剰 余 金	4,991,836
事 業 経 費	4,814,836
事 業 剰 余 金	177,000
事 業 外 取 益	80,000
事 業 外 費 用	17,000
経 常 剰 余 金	240,000
特 別 損 失	30,000
税 引 前 当 期 剰 余 金	210,000
法 人 税 等	72,000
記 念 事 業 積 立 金 取 崩	30,000
当 期 剰 余 金	168,000

※特別損失は、POSシステムの入替に伴う減損損失処理によるものです。

出資配当
利用高還元

のお知らせ

この1年間、コープかがわをご利用頂き、誠に有り難うございました。

剰余金処分

(年 率)

出資配当

0.10%

利用高還元

(還元率)

店舗利用

0.10%

共同購入・個人別宅配
PS(パーソナルステーション)利用

0.20%

2016年3月末現在

組合員数

19万3,126人

供給高

195億5,101万円

出資金

74億5,595万円

経常剰余金

3億5,847万円

新理事・新監事を紹介します。

地域組合員代表

各界有識者

監 事



丸亀エリア

柳口 華織さん



南部エリア

向原 佳代子さん



大川エリア

山崎 早苗さん



坂出エリア

岡田 幸子さん



坂出エリア

濱本 典子さん



合谷 祥一さん



福井 宣昭さん



藤澤 譲二さん



船本 真由美さん



福本 恵さん